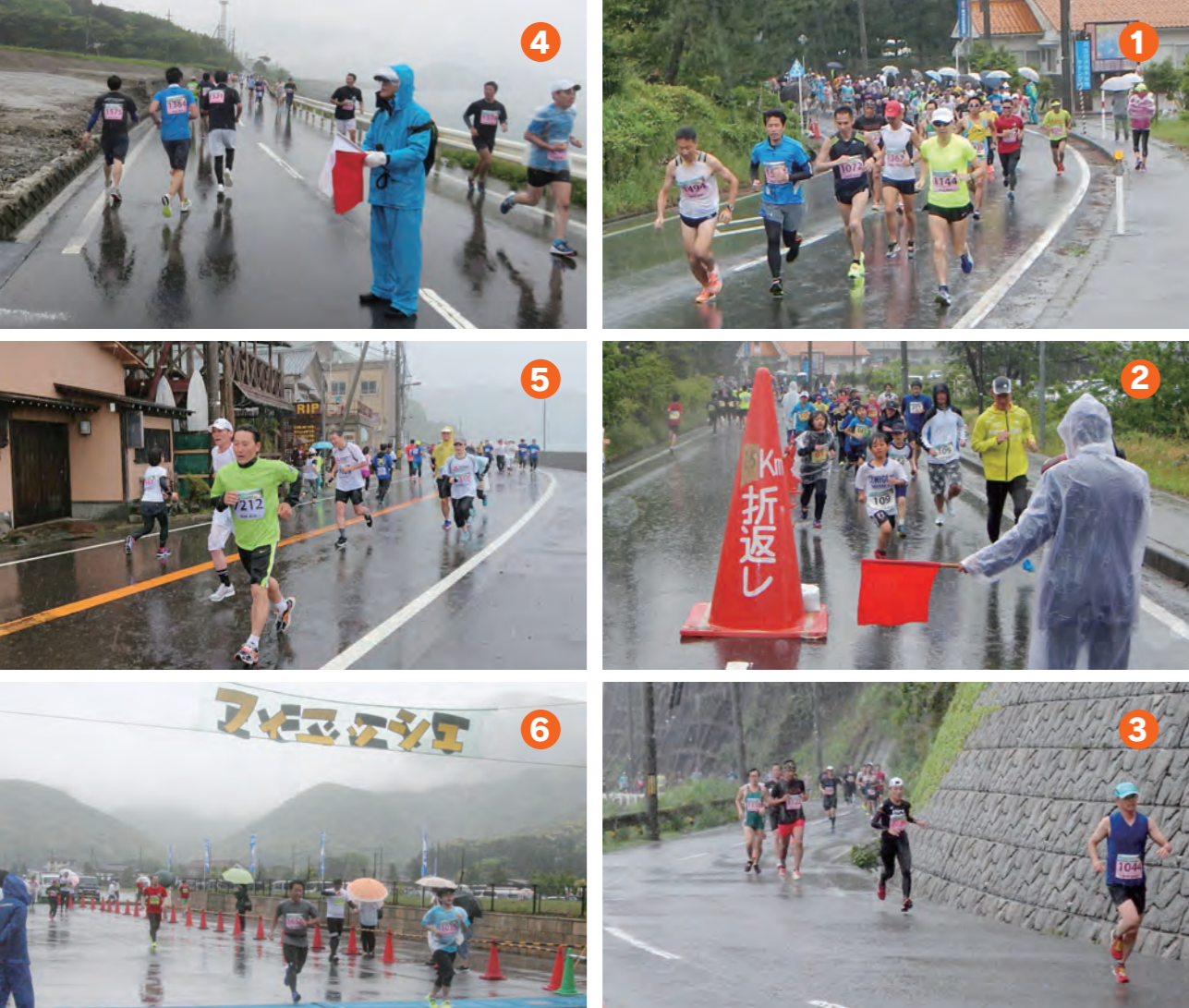


第30回 美浜・五木ひろしまラソン



3, 544人のランナーが
美浜の海岸線を駆け抜ける



↑ 開会式であいさつされる五木ひろしさん

5月13日に、第30回美浜・五木ひろしまラソンが、丹生特設会場から佐田までの海岸線コース（日本陸連公認）で開催されました。大会には、北は北海道、南は沖縄県から3,544人のランナーが参加しました。

午前8時50分から始まった開会式では、五木ひろしさんをはじめ、来賓の方々やゲストの宮川大助・花子さん、市川由紀乃さん、川上大輔さんから参加者に激励の言葉が贈られました。

今回は第30回記念大会として、開会式終了後に記念モノUMENTの除幕式が行われ、「ええとこやろ美浜」と刻まれたモノUMENTの除幕が終わると、参加者からは大きな歓声が上がりました。

Runner Interview



3km 中学校男子の部で優勝した

森下 聖 さん(佐田)

雨の中で、かなりキツイレースでしたが、色々な人が応援してくれて楽しく走れました。これからも、このような大会があれば参加したいです。



3km50 歳以上男子の部で優勝した

ムニッキ ジョバンニ さん(久々子)

雨の中でのマラソンでしたが、足の調子もよく走れました。昨年は2位でしたが、今年は最後にスパートをかけ1位を取ることができたのでうれしいです。



↑ 第30回大会記念モノUMENTの除幕式



↑ 選手宣誓(左から金森愛季さん、金森晃成さん、金森峻大さん)

午前9時50分に20kmの部が勢よくスタート。雨が降りしきる中、選手たちは潮風を肌で感じながら、風光明媚な海岸線コースで健脚を競いました。



↑Tシャツ交換



↑給水所



↑駐車場誘導



↑荷物預かり所



↑計測チップ回収



↑表彰式補助

美浜・五木ひろしまマラソンは、町内の区や団体、事業所等を中心とした、総勢約600人のボランティアスタッフがよって運営されています。

今回も、大会会場をはじめ、救護所や給水所、駐車場、コース等、それぞれの持ち場で、さまざまな業務を行っていただきました。

大雨の中、早朝よりご協力いただきました皆さん、本当にありがとうございました。

ランナーを支えたボランティアの皆さん



↑ゲストと一緒に「ふるさと」を熱唱する五木ひろしさん



↑表彰を受ける成績上位者

大会終了後は、五木ひろしさんとゲストによるミニコンサートが開催され、会場は大きな歓声が上がりました。

副賞と、母の日になんでカーネーションが贈られました。

大会終了後は、五木ひろしさんとゲストによるミニコンサートが開催され、会場は大きな歓声が上がりました。

記録 (敬称略)

部門	出走者数(人)	優勝者	タイム(時・分・秒)
20km一般男子	698	四辻 剛 (愛知県)	1:05:52
20km一般女子	68	古家 雅恵 (滋賀県)	1:26:24
10km一般男子	858	北岸 辰朗 (坂井市)	0:33:48
10km一般女子	153	井野 光子 (大阪府)	0:36:45
5km29歳以下男子	147	富田 翔太 (愛知県)	0:18:00
5km30歳代男子	173	西村 祥吾 (兵庫県)	0:17:25
5km40歳以上男子	502	高杉 泰範 (岡山県)	0:17:10
5km29歳以下女子	36	高嶋 彩音 (富山県)	0:22:23

部門	出走者数(人)	優勝者	タイム(時・分・秒)
5km30歳以上女子	137	馬淵 裕子 (岐阜県)	0:18:50
3km50歳以上男子	203	ムニツキ ジョバンニ (美浜町)	0:10:34
3km一般女子	109	福嶋美奈子 (福井市)	0:11:50
3km中学生男子	23	森下 聖 (美浜町)	0:10:18
3km中学生女子	9	正垣 水梨 (兵庫県)	0:11:17
1.5km小学生男子	41	吉田 朋生 (奈良県)	0:05:24
1.5km小学生女子	39	吉澤真結子 (敦賀市)	0:06:07
1.5km親子	348	(174組)(計測無し)	

五木ひろしふるさとチャリティコンサート



↑数々のヒット曲を熱唱される五木ひろしさん

マラソン前日の5月12日に、「五木ひろしふるさとチャリティコンサート」が総合体育館で開催され、県内外から1,460人の観客が来場しました。

コンサートは「九頭竜川」「夜明けのブルース」の熱唱で始まり、その後「よこはま・たそがれ」「恋歌酒場」等、五木ひろしさんは全15曲を披露されました。

また、ゲストの市川由紀乃さんと川上大輔さんによる熱唱や宮川大助・花子さんによる漫才、美浜中央小学校5、6年生児童との合唱等が催され、観客からは大きな声援が上がりました。



↑美浜中央小学校5、6年生児童とゲストによる「ふるさと」の合唱

Staff Interview



北田給水所
(左から)野崎 淳子さん、笹井 浩美さん、桃井 垂矢子さん、三田 晴美さん、中川 京子さん、乙見 裕子さん(北田)

雨の中の給水業務でしたが、スムーズに行うことができました。

ずぶ濡れになりながら走り続けるランナーの姿を見て胸が熱くなり、精一杯応援をしました。



丹生特設会場駐車場
川崎 康弘さん(菅浜)

あいにくの天候でしたが、30回記念大会として、多くの人に来ていただき賑やかな日となって良かったと思います。今後、このマラソンをきっかけに、多くの人遊びや観光に来てもらえたらと思います。



PRセンター救護所
若狭医療福祉専門学校の皆さん
(左から)川嶋 壘さん、夏水 李菜さん

この救護所では、体調が悪くなった方やケガをした方がなく無事に大会を終えることができよかったです。

雨の中、頑張っているランナーの姿を見て、私たちも自分の目標に向かって頑張りたいと思いました。

興道寺廃寺跡 国史跡へ



南から望む興道寺廃寺跡

2月13日に、興道寺廃寺跡が美浜町初の国史跡として指定されました。今月号では、興道寺廃寺跡が国史跡に指定されるまでの経緯やその価値等についてお知らせします。
※お問い合わせ先
町歴史文化館(担当・松葉) ☎32-0027

～ 興道寺廃寺跡 ～

- 所在地 美浜町興道寺
- 寺院規模 東西80メートル
南北112～118メートル
- 建立氏族 みみのわけ 耳別氏が有力
- 年代 7世紀後半～10世紀初めごろ
- 遺構 こんどうあと 金堂跡、とうあと 塔跡、ちゅうもんあと 中門跡
こうどうあと 講堂跡、なんもんあと 南門跡 等
- 遺物 そぞうらほつ 瓦、ぼくしよ 塑像螺髪、銅銭
墨書土器 等
- 指定年月日 平成30年2月13日 国指定
- 指定面積 約12,817平方メートル

興道寺廃寺とは

興道寺廃寺は、7世紀後半から10世紀初め頃まで、興道寺に存在したことが発掘調査で判明した古代寺院のことです。現在、寺院の建物は残っており、跡地には畑が広がっています。(上写真参照)

興道寺廃寺を建立した豪族は「耳別氏」と考えられており、耳川流域で古墳時代から勢力を維持し続けた豪族の子孫と想定されています。

興道寺廃寺跡の調査

～大正から昭和～

興道寺廃寺跡の調査研究における最も古い記録として、大正時代に編さんされた『耳村誌(稿)』に「廣堂観音堂があり、付近から瓦や礎石が発見されたことが記されています。

後に著名な考古学者となった小浜市出身の上田三平氏は、昭和8年発行の『越前及若狭地方の史蹟』の中で、多くの瓦片が出土する遺跡として興道寺廃寺跡を紹介しました。観音畑という当時の遺跡名が学史に登場して80年以上が経過しています。

昭和から平成にかけては福井県教育委員会による試掘調査も行われ、また興道寺廃寺に関する考古学や歴史

国史跡の指定へ

平成28年3月には興道寺廃寺跡のそれまでの発掘調査の成果を取りまとめた発掘調査報告書を発行し、遺跡の価値を町内外に発信しました。

そして、興道寺廃寺跡は平成29年11月17日に、国史跡に指定するよう国文化審議会から文部科学大臣に答申されました。調査研究が始まってから約百年、これまでの美浜町の遺跡調査の歴史の中で節目となる快挙で、平成30年2月13日には晴れて美浜町初の国史跡として指定がされました。まさに

史学の論文等も発表されています。このように、興道寺廃寺跡の調査研究には、さまざまな機関や研究者等が携わってきたことが伺えます。

興道寺廃寺跡の調査

～町による発掘調査～

町では、遺跡の内容や現存状況を確認するため、平成14年に発掘調査を開始し、12年間にわたって全16回の調査を実施しました。

平成17年には金堂や塔の跡が初めて発見され、その冬には専門家を招き、「興道寺廃寺の謎に迫る」と題したシンポジウムが2日にわたって開催されました。

平成18年には中門跡が、また、平成21年には2つの時期の金堂の基礎が重なる発見される等、大きな成果がありました。平成23年度までに伽藍(中心部)の様子が明らかとなり、七堂伽藍を備えた古代寺院であったことが分かりました。

平成24～26年度は国史跡としての指定を目指し、寺院の範囲を確認するための発掘調査が進められ、それまで分からなかった寺院の北と西の端が溝で区切られていることが分かり、寺域は南北112～118メートル、東西80メートルの規模であったことも判明しました。



↑8世紀後半の興道寺廃寺をイメージしたイラスト

国が遺跡の価値を認め、将来にわたって保存されることになりました。

識者の目から見た 興道寺廃寺跡①

美浜町文化財保護委員会 委員

みやべくにあき
宮邊 邦明 さん

「なぜ、興道寺という地名に『寺』が入っているのか…」と、ひそかに疑問を抱いていました。畑が一面に広がっているだけに見える場所が、実は歴史的価値のある立派な伽藍があった場所の跡とは夢にも思いませんでした。これも、幾度にわたる発掘調査の賜物であると思っています。

今後、興道寺廃寺跡の保存活用計画が検討され、老若男女問わず、町民の皆さんが歴史を感じつつ憩える場になればと思っています。

識者の目から見た 興道寺廃寺跡②



福井大学
教育学部 教授
かどい なおや
門井 直哉 さん

興道寺廃寺は中央集権国家の建設途上にあつた7世紀末頃に創建された古代寺院です。当時、わが国では鎮護国家の教えとして仏教の普及がすすめられ、地方の有力豪族たちは中央政権への恭順と在地における自らの優位性を示すために寺院を建立しました。興道寺廃寺の造営に関わった豪族としては『古事記』開化天皇段にみえる耳別氏が想定されます。一方、古代三方郡の役所(郡家)の所在地は三方湖周辺が有力視されており、耳別氏以外の豪族が郡司として活躍していた可能性も考えられます。そうした中で、興道寺廃寺は約200年にわたって存続しますが、このことは何を意味しているのでしょうか？興道寺廃寺跡は地方における仏教受容の実態や政治動向について考える材料を与えてくれる貴重な遺跡といえるでしょう。



慶應義塾大学
文学部 准教授
わたなべ たけひこ
渡辺 文彦 さん

史跡興道寺廃寺跡は、その造営から廃絶にいたる変遷過程を、良好な保存状態の遺構の分析を通して示すことができる、北陸地方では極めて例の少ない古代寺院です。くわえて遺跡から出土した墨書土器等、各種遺物の研究からは、その造営に若狭国三方郡の有力氏族「耳別氏」が関与したことも示唆され、同地域の7世紀後半の政治動向や寺院造営のあり方を考える上でも貴重です。また地域を代表するこの遺跡の保存は、長年の発掘調査・研究を続けてきた美浜町教育委員会と、それを温かい目で支え続けた地元町民の皆さんの協業により成し遂げられたものであり、今後より一層の積極的な活用が望まれます。

**興道寺廃寺跡の
今後の保存・活用に向けて**

興道寺廃寺跡の国史跡への指定の道のりは長く、地元の皆さんをはじめ、屋外での発掘調査に従事された人々、遺跡の価値を世に知らしめた多くの歴史研究者、そして文化庁をはじめとした関係機関のご理解、ご協力なくしてなし得なかつたことでした。

これから百年、そして千年先にこの遺跡を伝えていくため、町教育委員会では、地域住民や有識者、関係機関からなる保存活用計画策定委員会を設け、平成30年度から2年をかけて興道寺廃寺跡の保存活用計画を



↑保存活用の一例(越前市大虫廃寺塔跡)

作成していきます。遺跡をとりまく環境や価値を整理し、史跡の保存方法や活用方法について、さまざまなことを検討しながら計画づくりを進めていく予定です。

興道寺廃寺国史跡指定記念講演会を開催しました

3月21日に、日本古代史が専門の栄原永遠男先生を講師にお迎えして、興道寺廃寺国史跡指定記念講演会を美浜中学校で開催しました。

講演で栄原先生は、興道寺廃寺を建立したと考えられる豪族、耳別氏について、『古事記』や『日本書記』等にみられる耳別氏や関係豪族の系譜を読み解きながら、古代の近畿地方から滋賀県西部、そして越前地方に勢力を伸ばした和邇氏との関係性に注目しつつ、周辺の広い地域の豪族の協力を得ながら



↑興道寺廃寺について語る
栄原永遠男先生

興道寺廃寺が建立され、維持されていったのではないかと指摘されていました。

出席者約80人は、講演に熱心に耳を傾けながら、遠い昔に思いを馳せていました。

■本格的な伽藍があることが分かり、若狭地方の古代社会の研究の重要な発見となった

寺域の範囲がほぼ明らかになり、中心伽藍のみならず、伽藍の北方に雑舎群等が良好に現存している可能性が高いことが分かりました。

古代寺院の中には、村の中に一堂の建物しかないようなものも多数あつたことが知られる中、興道寺廃寺は伽藍を整えるだけでなく、その周辺にも建物跡が展開し、大きな寺域をもつていたことが分かつたこと



↑天井部に「耳」と墨書きがされている須恵器の蓋

古墳時代から続く耳別氏が古代寺院の建立や維持を通じて地域社会で勢力を伸ばしていたことが分かり、地方豪族の動向を考える上でも重要です。

■若狭地方の豪族の盛衰が迎えられることが明らかになった

寺院が建立される前、6世紀の豪族の居館とみられる大規模建物跡が確認されており、古墳時代の豪族の居館、寺院創建、寺院再建へと至る同一の地域での数百年にも及ぶ豪族の歴史、痕跡を辿れることが分かりました。



↑発掘された塑像螺髪

は、耳川流域だけでなく、若狭地方の古代社会を考える上で、大変重要な成果です。

■古代寺院が再建された事例が遺構で確認できた例は、ほとんどない

地方の豪族が建立した古代寺院について、出土瓦の年代差から改修、再建に伴う複数時期があつたことは知られていますが、それを遺構で確認したことは希少です。

これは、興道寺廃寺跡の創建から再建、廃絶へと至る歴史を考える上で大変重要なことで、特に古代寺院が再建された事例が発掘調査で分かっているのは法隆寺(奈良県生駒郡斑鳩町)が若草伽藍から西院伽藍へと建て替えられ、また穴太廃寺(滋賀県大津市)がほぼ同じ場所で作り替えられていることが発掘調査で分かっている他に、ほとんど例がありません。



↑再建期の金堂基壇北辺の瓦溜まり

**文化庁から発表された
興道寺廃寺跡の価値**

平成29年11月の答申の際、文化庁からは興道寺廃寺跡について「北陸において創建から廃絶に至るまで伽藍の変遷が明らかとなつた数少ない古代寺院」と評価され、興道寺廃寺跡の価値が次のように発表されました。

平成14年度から美浜町が実施した継続的な発掘調査で、金堂、塔、講堂、中門等の主要伽藍の状況と寺域等が明らかになった。また、寺域を限る溝等の発掘によりその規模は西端付近で南北約118メートル、東西約80メートルと推定された。金堂、塔の造営は7世紀後半から8世紀前半、講堂は8世紀中頃の建立で、その後、8世紀後半以前に塔の建て替えが行われ、8世紀後半、9世紀後半には金堂の建て替えと中門・南門が建立されるといふ伽藍造営の過程と変遷が明らかになった。

興道寺廃寺は、7世紀後半に若狭国三方郡の有力氏族により建立されたと考えられるが、この時期は全国規模で郡司氏族による寺院造営が活発化したことが知られており、興道寺廃寺は北陸において当時の実態が判明した数少ない寺院の事例である。また、創建から廃絶に至るまでの伽藍の変遷が明らかになった希少な事例であり、古代寺院造営のあり方と、郡司氏族による仏教信仰の展開を知る上で重要である。

げんげん運動 株式会社タニタヘルスリンクと「健康づくりの推進に向けた包括的連携協定」を締結

お問い合わせ先
町健康づくり課
(担当・山本)
☎32-6713



↑ 連携協定を結んだ山口町長(左)と丹羽隆史代表取締役社長(右)

4月19日に、「健康づくりの推進に向けた包括的連携協定」の調印式が町役場で行われました。この協定は、健康なからだづくりに向けたサービスを提供する株式会社タニタヘルスリンクとの連携のもと、市民の健康的な生活の実現と健康寿命の延伸を通じた「健康なまちづくり」の推進のため締結されたものです。今回の協定により、今後、健康計測機器を利用した健康づくり推進や健康料理メニューの監修等を進めていく予定です。

山口町長は「食の専門家としての力を借りながら、町民の健康増進や観光振興、また、健康食品の生産を通じた産業振興を図っていききたい」と述べ、丹羽隆史代表取締役社長は「私たちが持つ各種機器や運動、食事、メンタル等の知見・ノウハウを提供することで、運動と食の改善に尽力したい。げんげん運動に参加する方々が、楽しみながら取り組める環境を整備していきたい」と抱負を話されました。

げんげん運動 集落の特徴を踏まえた健康づくり「げんげん歩楽寿推進集落」として5集落を指定

お問い合わせ先
町健康づくり課
(担当・長谷川)
☎32-6713

4月23日に、「げんげん歩楽寿」の推進集落として、金山区、和田区、佐栢区、新庄区、山上市の5集落が指定されました。町では、平成25年度から、適正な塩分摂取(減塩)と適正なエネルギー摂取(減量)により健康増進を図る「げんげん運動」に取り組んできました。今年度からは、この「げんげん運動」の「食」を強化(野菜の摂取量増加等)し、運動をプラスした「げんげん歩楽寿」の取り組みを始めています。今回の指定は、「げんげん歩楽寿」を町全体に広めるため町が行ったもので、指定期間は、平成30年4月23日から平成31年3月31日です。推進集落では、食生活や運動、保健指導等の生活習慣改善に関する講座や、家庭の味噌汁や尿中の塩分測定、集落での健診受診勧奨等の活動を主とし、各集落の特徴や課題を踏まえた独自の取り組みにより生活習慣病の予防及び改善を目指します。当日は、山口町長が推進集落の区長に指定書とのぼりを



↑ 推進集落に指定された5集落(左から和田区、金山区、佐栢区、新庄区、山上市)

第3次美浜町男女共同参画推進計画を策定

町では、平成30年3月に「共に「ひと」としてはあとふる愛・あいプランⅢ」(第3次美浜町男女共同参画推進計画)を策定しました。この計画は、平成30年度から平成34年度の5年間で計画期間として、男女共同参画社会の実現を目指すために策定されたものです。



計画策定の背景

男女共同参画社会とは、男女がお互いを尊重し合い、職場や学校、家庭、地域等の社会のあらゆる分野で、性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮し、喜びや責任を分かち合うことができる社会のことです。

町では、男女共同参画社会の実現を目指して、平成15年3月に「美浜町男女共同参画推進計画」を、平成25年3月に第2次計画を策定して施策を進めてきました。

今回、第2次計画の計画期間終了に伴い、策定委員会を設置して、国や県、町内の状況を踏まえながら第3次計画について協議・策定しました。



↑ 山口町長(右)に計画を答申する長谷川美香委員長(左)

第2次計画からの変更点

第3次計画では、前計画と比べて次の点の強化・拡充を行いました。

- 男女がともに働きやすい環境づくり
5年前より共働き率が高くなっているため、男女ともに働き方を見直す「働き方改革」(長時間労働の是正や年次休暇の取得促進)を推進する。
- 誰もが安心して暮らせる環境の整備
高齢化社会が進む現在、実際に介護を担う人の大半が女性であることから、高齢化社会に対応する取り組みを推進する。

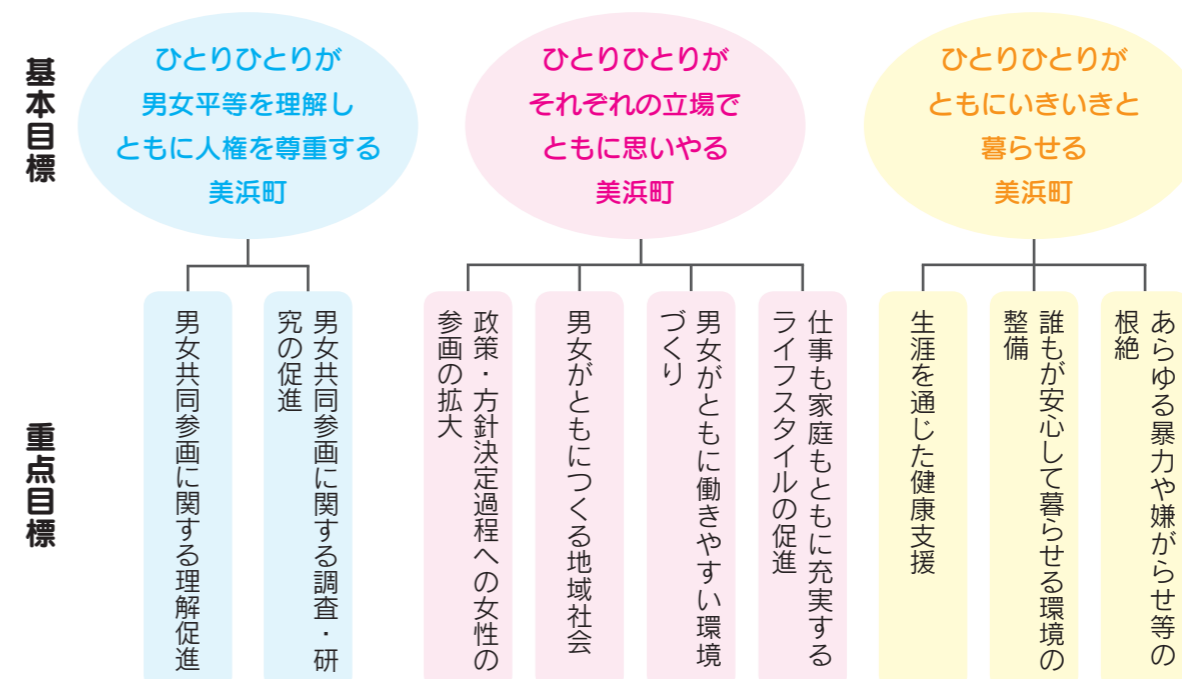
今後の推進に向けて

町では、今後、第3次計画に基づき町民一人ひとりの意識啓発活動や推進体制の充実等を行い「男女共同参画のまち」を目指します。

※お問い合わせ先

町企画政策課(担当・石井)
☎32-6701

第3次美浜町男女共同参画推進計画 体系図



平成 29 年度ごみの排出量

今月号は、平成 29 年度に町から出たごみの量をお知らせします。
平成 29 年度は、前年度と比べて可燃ごみと不燃ごみ・不燃粗大ごみが増量し、資源ごみが減量しました。これは、昨年、猛威を振った台風による影響と推定されます。
年によっては、皆さんの努力が目に見えない場合もありますが、今後もごみの分別やリサイクル等にご協力よろしくをお願いします。

※お問い合わせ先
町住民環境課(担当・藤村) ☎32-6703

美浜の
環境
シリーズ
109
environment

可燃ごみ

▶ 2,856 t ※前年度と比較すると 22t の増量となりました。

■ 過去 5 年間の推移

年度	排出量	前年度との増減
24	2,906 t	-
25	2,870 t	-36 t
26	2,825 t	-45 t
27	2,790 t	-35 t
28	2,834 t	+44 t
29	2,856 t	+22 t



↑紙くず、木くず、草木、発砲スチロール、革製品、ゴム、ビニール製品、綿製品等の可燃ごみ

不燃ごみ・不燃粗大ごみ

▶ 296 t ※前年度と比較すると 15t の増量となりました。

■ 過去 5 年間の推移

年度	排出量	前年度との増減
24	253 t	-
25	276 t	+23 t
26	264 t	-12 t
27	284 t	+20 t
28	281 t	-3 t
29	296 t	+15 t



↑鍋、スプレー缶、照明器具、工具等の金属類や、茶碗、コップ、花瓶等の陶器・ガラス製の不燃ごみ

資源ごみ(缶・ビン・ペットボトル・白色トレイ)

▶ 88 t ※前年度と比較すると 1t の減量となりました。

■ 過去 5 年間の推移

年度	排出量	前年度との増減
24	116 t	-
25	111 t	-5 t
26	106 t	-5 t
27	102 t	-4 t
28	89 t	-13 t
29	88 t	-1 t



↑缶やペットボトル等の資源ごみ

福井しあわせ元気国体 2018 福井しあわせ元気大会 2018

第73回 国民体育大会 / 第18回 全国障害者スポーツ大会 織りなそう 力と技と美しさ



きよか 炬火イベントが始まります

炬火とはオリンピックの聖火にあたるもので、福井国体・障スポのシンボルになります。
福井国体・障スポの炬火は、9月29日に開催される国体の総合開会式において、県内17市町でおこした火を一つにして完成させます。
町では、町内のイベントや各小学校で採火(火おこし)を行い、それぞれの火を集めて「美浜町の火」を完成させます。



↑美浜・五木ひろしまラソンの採火

(採火)
マイギリを使って火をおこします。



↑岩手国体での炬火リレー

(炬火リレー)
集火会場までリレーを行います。



↑愛媛国体での集火式

(集火式)
おこした火を一つにして「美浜町の火」が誕生します。

◎炬火名を募集します



町では、「美浜町の火」の名称を下記のとおり募集します。ぜひご応募ください。

- 募集期間
6月29日(金)まで
- テーマ等
町の歴史・文化・自然等の魅力を発信できるような「美浜町らしさ」を表現した名称であること。なお、応募作品は未発表のものに限ります。
- 応募資格
町内在住、または町内に通勤・通学している方
- 選考
町実行委員会で選考後、応募作品の中から最優秀賞1点を決定し「美浜町の炬火名称」として採用します。また、入賞者には賞状と記念品を贈呈します。
- 応募方法
町ホームページに掲載または町国体推進室や各公民館に設置されている応募用紙に必要事項を記入の上、郵送やFAX、メール、持参のいずれかによりご応募ください。
- その他
8月11日(土)に実施予定の集火イベントで炬火名の発表を行います。

■お問い合わせ先

町美浜創生戦略課 国体推進室内
「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会美浜町実行委員会事務局(担当・荒木)
☎ 32-6715 FAX 32-1115 国体ホームページ <http://2018kokutai-mihama.com/>

Facebook

